幼児教育は未来への希望の投資

青南だより

令和４年　２月号

港区立青南幼稚園
園長　新山 裕之

＜カエデがもたらしてくれる多様な経験＞

ホームページで何度もご紹介してきているシンボルツリーのカエデは１２月中頃から色付き始め、美しい紅葉を見せてくれました。その葉っぱは、子どもたちの豊かな想像力と結び付いて様々な形で遊びを生み出しています。他の葉っぱに比べて柔らかくて形もかわいいからでしょうか。きれいな落ち葉は、花びらや雪などに見立てて、手に取ると思わず空に向かって投げ上げたくなります。年が明けるとぐっと増えた落ち葉を集めて、焚火やお風呂に見立てた遊びも始まりました。

12 月中旬にきれいに色付くカエデ

きれいな葉っぱは投げ上げたくなります

＜見方を変えれば宝物に＞

葉っぱが少しずつ散り、木の周りは落ち葉でいっぱいになっていきました。単なる落ち葉と見れば、掃いて捨てることになりますが、見方を変えれば宝物になり、教材になります。きれいな葉っぱのうちは、それを花びらに見立てて花束も作る子もいました。先生が舞わせているのを見て、自分も同じように舞わせようとビールケースを運んで来る姿からは、過去の経験を生かして問題解決する力が見えました。楽しそうな様子に誘われて友達が集まってくる姿からは、学級としての心のつながりが見えました。

カエデの葉っぱできれいな花束が完成！

＜受け継がれていく遊び文化＞

土工場作りの際に発明した特製マシーンは、遊び込んで粉々になった落ち葉と砂を振い分けるためにも使っています。二人で掛け声を掛けながらカゴを動かして振るって砂を落とし、残った落ち葉を土工場に運びます。年長児がやっている様子に興味をもった年少児が「何をしているんだろう」と思っていると、「一緒にやってみる？」と誘ってくれました。落ち葉と関わる遊びや活動はこんなふうに実際の姿を見たり、一緒にやったりする中で青南幼稚園の子どもたちの中に受け継がれているのです。

やってみたい気持ちが生んだ遊び

特製マシーンで振るいにかけるのを
年長児が年少児に教えます

粉々になった落ち葉は土工場に

青南の二十四節気

・・・如月（きさらぎ）・・・

立春（４日）…フキノトウが顔を出し始めます…
雨水（１９日）…コブシの蕾がふくらんできます…

遊び込んだ落ち葉を土工場に入れる前に、葉っぱと砂とを分けるための作業は、ビールケースの上にカゴを乗せた「特製マシーン」を使ってしています。子どもたちにとっては楽しい遊びで、息を合わせるために「つちこうじょう！つちこうじょう！」と掛け声を掛けながら動かして、青南幼稚園の新しい遊び文化になりつつあります。

豆まきをして鬼を追い払うと、翌日は立春です。裏庭には、フキノトウが芽を出していて、寒さの中にも少しずつ春の足音が聞こえてきています。皆さんも、身の回りで小さな春を探してみませんか。